

学校法人隆志学園 田端さくら幼稚園

令和5年度 学校自己評価・点検

本園では、その教育方針や現状・今後の取り組むべき課題を教職員が「自己評価・点検表」としてまとめ、公表することにより、客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に課題を見つけ改善に取り組むことでより良い教育・保育活動を行うよう努めていきたいと考えております。

教育目標

「子どものしあわせを第一に考える」を教育理念に、心身共に健やかにそして進むべき道を自らの力で切り拓きたくましく未来を生きる子どもの育成を目標とする。

めざす子どものひとから

- 「元気で丈夫な子ども」
- 「思いやりのある優しい子ども」
- 「自分のことは、自分でやる子ども」
- 「よいこと、わるいことがわかる子ども」
- 「ごあいさつがしっかりできる子ども」
- 「うつくしいものたのしいことが好きな子ども」
- 「おはなしが聞ける子ども」

本年度の重点目標

「地域での連携を大切にし子どもたちを皆で育てていく」

評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	結果の理由
I 保育の計画性	B	<ul style="list-style-type: none">○園の教育目標、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態をふまえて保育計画をたてている。○子どもの自発性と保育の目的をしっかり念頭に置いた環境構成を心掛けている。○お互いの保育を見る機会を作り 教職員間で評価しあうことで、自分の保育を振り返り客観的に見直す場を作れるようにする。
II 保育の在り方、幼児への対応	A	<ul style="list-style-type: none">○一人ひとりの健康に目を配り、保護者との連携等適切な対応ができるよう心がけている。○一人ひとりの子どもをよく理解し、個性や努力を公平に評価している。○歌唱専門家による童謡指導を月3回程度行い 本格的な音楽教育・日本の言葉や情景の美しさを感じられるような指導を実施。2月に北とぴあでの発表の場を設け子どもの達成感も育てている。○英語の正課ではネイティブの教師による英語教育を通して、歌や踊りを楽しみながら異国の言葉や文化に触れる機会として指導をしている。

III 保育者としての能力 や良識・適正	A	○園の指導目標でもあるあいさつの大切さを実践し示している。 ○職員間で規律と節度を保ち、和やかさと規律を保った組織である。 ○幼稚園教諭としての専門性を高めていけるよう努力をしていく。
IV 保護者への対応	A	○プリントやアプリを通して情報の発信や受信ができる。 ○保護者会と個人面談を行っている。 ○直接保護者と相談ができるよう、必要時電話等している。 ○守秘義務の保守に留意しつつ対応していく。
V 地域の自然や社会と の関わり	C	○幼小連携として小学校訪問が今年度より再開された。卒園後 児童に求められていることを直接見ることで学び、保育に活かしていく。 ○ひよこルーム等、地域の子育て支援事業としての役割を果たしている。
VI 研修と研究	B	○特に夏休み等を利用し自己研鑽の場として参加はできている。 ○より積極的な自発的な参加を心がけ、より内容を深く理解できるようにする。

A：十分に成果があった B:成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった

総合的な評価結果

評価項目	結果
B	各項目及び総合的な評価結果は「B」評価となり、保育の基本を大切にし一人ひとりの子どもの尊重を意識した教育の実践ができている。特に「保育の在り方・幼児への対応」の項目は、幼児教育の根幹となる分野であり、教諭として自信を持って取り組んでいる点が評価できる。さらなる質の向上に向け、課題に真摯に取り組んでいく。

A：十分に成果があった B:成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった

今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に積極的に関わり、地域の方々や団体と交流の機会を持つ。 ・挨拶や顔をあわす頻度が増えるよう自ら声をかけたり笑顔でいるといった心がけをする。
教師の役割と資 質向上・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を通して子どもの自主性を育てられるよう問いかけを増やした保育をする。 ・研修計画を余裕をもって立て、計画的に実施していく。 ・研修でも受け身で臨むのではなく、発言や質問をするなど積極的な姿勢で取り組んでいく。

令和6年3月10日公表